

作成年月日	平成30年7月31日
作成部署名	産業労働部国際局 国際交流課 国際経済課

## 知事の海外出張（米国・ワシントン州、ネブラスカ州、インディアナ州）の概要

今年、兵庫県とワシントン州は姉妹提携55周年を迎える。そこで、両県州の友好交流と相互理解を一層促進するため、知事を代表とする友好代表団が、議会訪問団、経済交流団、県民交流団など計7団の約70名でワシントン州を訪問した。知事は、州政府と交流協議や共同声明調印を行うとともに、日米交流団体などを訪れて、草の根交流や経済交流の促進に向けて意見を交わしたほか、今年4月に「観光・地域活性化連携協定」を締結したエクスペディアホールディングス(株)のワシントン州本社を訪問した。

また、知事は、ワシントン州訪問に先立ち、ネブラスカ州とインディアナ州を訪れた。ネブラスカ州では、川崎重工業の米国基幹工場をはじめ県内企業4社が進出していることなどを背景に、州政府と経済分野を中心に交流協議を行って共同声明に調印した後、この共同声明のキックオフイベントとして「ひょうご経済セミナー」を開催した。また、川崎重工業のリンカーン工場を視察した。

インディアナ州では、州政府を表敬訪問したほか、神戸に立地するイーライリリー社(世界的な製薬会社)の米国本社を訪問し、日本法人の神戸新社屋開設と今後の拠点としての期待を伝えるとともに、今後引き続きの地域に密着したビジネス・社会貢献活動を依頼した。

1 期 間 平成30年7月24日(火)～30日(月)

2 訪問先 米国(ワシントン州、ネブラスカ州、インディアナ州)

### 3 主な内容

#### (1) ワシントン州(オリンピア、シアトル、ベルビュー、ベインブリッジ・アイランド)における友好交流活動

##### ①兵庫県・ワシントン州姉妹提携55周年事業

##### ア ワシントン州による歓迎セレモニー

○日 時：7月27日(金)13:00～13:20

○場 所：州議事堂・裁判所前

○参集者：約150名

<ワシントン州側>

ジェイ・ロバート・インズリー知事等の州政府関係者

サイラス・ハビブ上院議長等の州議会関係者

カーリン・ザーク・ブラック ワシントン州日米協会次期会長等のビジネス関係者

サンドラ・カイザー エバーグリーン州立大学副学長等の大学関係者

シェリル・セルヴィ市長等のオリンピア市政府関係者

カレン・フレイザー姉妹提携55周年事業準備委員会委員長等のボランティア関係者

<兵庫県側>

友好代表団 井戸知事 等 5名

県議会訪問団 松本議長 等 12名  
 経済交流団 角南団長（角南商事(株)代表取締役社長）等 20名  
 県民交流団 東根団長（県水産振興基金理事長）等 26名  
 県立大学訪問団 高坂理事兼副学長 等 3名  
 町村会訪問団 古谷副会長（稲美町長）等 3名  
 新西宮ヨットハーバー訪問団 境代表取締役社長 等 2名  
 オリンピア・加東市姉妹都市協会 中学生・高校生 等 14名  
 <在シアトル日本国総領事館>  
 山田総領事

○内 容：

インズリー知事、ハビブ上院議長（副知事）をはじめとする多数のワシントン州民が、オリンピア市の州議事堂・裁判所前の広場にて、井戸知事、松本議長をはじめ、80名を超える兵庫県関係者を盛大に迎えた。

州議事堂の階段に両県州民が集まる中で、到着した井戸知事をインズリー知事が出迎えて、両県州知事が祝賀の挨拶を行った後、姉妹都市学生交換プログラムでオリンピア市を訪れていた加東市の中学生・高校生が「鯉のぼり」の合唱を披露した。

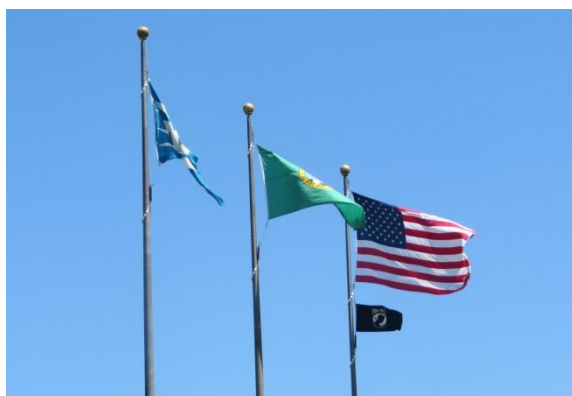
そして、旗の掲揚へと移り、インズリー知事、井戸知事、ハビブ上院議長、松本議長がワシントン州旗、米国国旗がたなびく隣のポールのハンドルを回し、兵庫県旗を高く掲げた。



議事堂の階段に集まる両県州民



井戸知事挨拶



たなびく両県州旗と米国国旗



「鯉のぼり」を合唱した加東市の学生

## イ インズリー知事との交流協議・州知事主催昼食会

○日 時：7月27日（金）13:20～14:20

○場 所：知事公邸

○参集者：9名

＜ワシントン州側＞

ジェイ・ロバート・インズリー知事、ドゥリュウ・シャーク 知事室 法務局長、スカイラー・ホス国際局長、カレン・フレイザー姉妹提携55周年事業準備委員会委員長

＜兵庫県側＞

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

＜在シアトル日本国総領事館＞

山田総領事

○内 容：

井戸知事とインズリー知事は、両県州の共通性について、①MRJ（三菱リージョナルジェット）開発の進捗による地域産業活性化への期待、②ものづくり産業のさらなる振興や情報産業の集積への重点対応（世界的にも情報産業が集積するワシントン州ではその集積の維持、その集積が欠如する兵庫県では誘致・起業の拡大）、③防災・地震対策の強化、④医療・健康産業クラスターの競争力強化（ワシントン大学を中心とするクラスターと神戸医療産業都市）、⑤環境保全への関心（県民緑税新規課税の検討）の5つをあげた。そして、これらの共通する課題や取組においては、両県州が連携・協力していく意義が大きいことを確認した。

また、両県州知事は、各種交流の基盤となる草の根交流の重要性について認識を同じくして、両県州の協力のもと、今年9月にシアトルで開催される「日米草の根交流サミット」を成功裏に終え、来年6月の兵庫・姫路開催にバトンをつなげていく決意を語った。

さらに、トランプ政権が検討を進める関税政策、移民政策に対する強い懸念を共有した。井戸知事は、とりわけ自動車関税に大きな懸念を抱いており、もし25%といった関税がかけられた場合、日本経済は大きな打撃を被ることは間違いないことに加え、米国経済にも影響を及ぼすとの見解を示し、インズリー知事も賛同した。

## ウ 姉妹提携55周年記念式典

○日 時：7月27日（金）15:30～16:45

○場 所：州議事堂

○参集者：約150名

＜ワシントン州側＞

ジェイ・ロバート・インズリー知事等の州政府関係者

サイラス・ハビブ上院議長等の州議会関係者

カーリン・ザーク・ブラック ワシントン州日米協会次期会長等のビジネス関係者

サンドラ・カイザー エバーグリーン州立大学副学長等の大学関係者

シェリル・セルヴィ市長等のオリンピア市政府関係者

カレン・フレイザー姉妹提携55周年事業準備委員会委員長等のボランティア関係者

＜兵庫県側＞

友好代表団 井戸知事 等 5名

県議会訪問団 松本議長 等 12名

経済交流団 角南団長（角南商事(株)代表取締役社長）等 20名  
県民交流団 東根団長（県水産振興基金理事長）等 26名  
県立大学訪問団 高坂理事兼副学長 等 3名  
町村会訪問団 古谷副会長（稲美町長）等 3名  
新西宮ヨットハーバー訪問団 境代表取締役社長 等 2名  
オリンピア・加東市姉妹都市協会 中学生・高校生 等 14名  
＜在シアトル日本国総領事館＞  
山田総領事

○内 容：

冒頭、松本議長、山田総領事、ハビブ上院議長（副知事）、フレイザー委員長等の主要な参加者の紹介が行われた後、両県州知事が入場して式典が始まった。そして、山田総領事がまず挨拶の壇上にあがり、ピアノとチェロによる「夏の思い出」の演奏をはさんで、インズリー知事、井戸知事が挨拶に立った。

その後、大学間協定、マリナー協定の締結式、両県州共同声明の調印式が順に行われ、続いて、井戸知事からインズリー知事への県功労者表彰（国際協力功労）授与式が執り行われた。そして最後に、井戸知事からフレイザー準備委員会委員長へ記念品が贈呈されて式典が終了した。

なお、この式典の様子は、ワシントン州公共テレビ局がリアルタイムで放映された。

《山田総領事》

井戸知事、松本議長をはじめ、これだけ多くの方々兵庫から訪ねられていることこそが、兵庫県とワシントン州が培ってきた交流の積み重ねを物語っている。

両県州は、港を中心とする発展、盛んな酒造り、自然災害への対応といった共通項があり、55周年を契機にそれぞれの取組みを共有しながら双方が発展できる協力体制を強化いただければと考える。

また、ワシントン州は女性が活躍し、多様性が重んじられることで知られており、こういった点は兵庫県がもっと学べるのではないかと思う。一方、兵庫県には人と防災未来センターをはじめとする優れた防災関連施設が集積しており、ワシントン州はこれら施設との連携・活用を通じて防災対策をレベルアップできるのではないかと考える。

両県州の今後さらなる交流の促進のベースは草の根の交流にあり、日米草の根交流サミットが今年はシアトルで、来年は兵庫・姫路で開催される意義は大きく、両県州の協力により成功に導いていただきたい。

《インズリー知事》

米国と日本は太平洋を挟んで遠くにあるが、ワシントン州によって太平洋の先に兵庫県があるのは非常に心強い。

先程まで井戸知事と今後の交流について幅広い意見交換を行っていたが、両県州はライフサイエンスや航空機といった次世代産業の育成に強みがあり、連携を一層深めていく余地は大きいと考える。MRJ（三菱リージョナルジェット）の開発が話題になっているが、この開発が進むことは、兵庫県にとっては「ものづくり産業」の新たな牽引役の期待がふくらむということであるし、ワシントン州にとっては研究開発や試験飛行の拠点を有することから産業を活性化することにつながる。

また、来年4月から、関西国際空港とシアトル空港を結ぶ直行便が再開されるが、この機会を捉え両県州の交流をさらに密にしていくことについても確認した。さら

に、地球温暖化、水害・地震などの自然災害への対応も両県州が共通して直面する課題であり、これら課題に取り組む若い世代の育成に関しても両県州が協力していくことに合意した。

本日の 55 周年記念行事は、両県州の協力・連携の新たなスタートラインであり、参集する皆さまとともに交流を深めていきたい。

#### 《井戸知事》

兵庫県・ワシントン州姉妹提携 55 周年記念事業に際して、本県から、県議会訪問団、経済交流団、県民交流団、県立大学訪問団、町村会訪問団、新西宮ヨットハーバー団が赴いており、紹介させていただく。また、ワシントン州側に関して、カレン・フレーザーさんには準備委員会委員長としてご尽力賜ったこと、厚くお礼申し上げます。

兵庫県とワシントン州に共通点があるとすれば、それはまず多様性であると考えられる。兵庫県は今年 150 周年を迎えるが、その 150 年を支えてきたのは 5 つの地域の多様性である。インズリー知事からワシントン州は多文化共生の先頭に立っていると伺ったが、兵庫県も約 150 カ国・10 万人の外国人が居住している多文化共生社会であり、これからも多様性から未来を切り開いていく。

今年 9 月にはシアトルで日米草の根交流サミットが開催され、来年 6 月には兵庫・姫路で開催の運びとなっている。ワシントン州からのバトンを兵庫県がしっかり受け取り、兵庫・姫路開催を成功に導いていく。

これから両県州姉妹提携 55 周年記念共同声明に調印する訳であるが、これはこれまでの交流をベースにこれからの交流を一層深化させるためのものである。地球全体が狭くなっており、地域の課題は世界の課題、世界の課題は地域の課題という状況に直面している。そこで、強力な共同声明の調印を契機に、連携強化の始まりを宣言する。

#### 《大学間学術交流協定締結式》 ※別添資料 3 参照

マリーナ協定締結に続き、兵庫県立大学の高坂理事兼副学長とエバーグリーン州立大学のサンドラ・カイザー副学長が、両県州知事立ち会いのもと、教育・研究交流活動の重要性に対する認識のもとに、教員交流・学生交流を行うことに同意する学術交流協定を締結した。兵庫県立大学の前身である神戸商科大学とエバーグリーン州立大学は 1979 年に大学間協定を締結し、学術交流・学生交流を行ってきたが、今回新たに更新を締結したものである。

兵庫県立大学は、来年 4 月に新設する国際商経学部にすべての科目を英語で学ぶ「グローバルビジネスコース」を設置し、キャンパス内に国際学生寮を整備することとしており、エバーグリーン州立大学と学術・教育交流を一層活発にしていくことを確認した。

#### 《マリーナ協定締結式》 ※別添資料 4 参照

新西宮ヨットハーバーの境代表取締役社長とスワントウン・マリーナ&ボートワークス（ワシントン州オリンピック港湾局の一部門）の E.J.ジタ ポートコミッション会長をはじめとする 4 名のコミッショナーが、両県州知事立ち会いのもと、姉妹マリーナ協定を更新して、サービス、経営及び施設の向上のための技術的交流、環境管理を推進する知識及び活動の共有を図ることを確認した。

#### 《共同声明調印式》 ※別添資料 2 参照

多数の両県州民が参集した調印式典の締めくくりとして、両県州知事が、今後さらなる交流の深化を確認した交流協議の文書化となる多分野を包括した兵庫県・ワシントン州姉妹提携 55 周年共同声明に調印し、松本議長とハビブ上院議長も立会人署名を行い、調印した声明文書が高く掲げられて固い握手が交わされた。

#### 共同声明の概要

- 1 大規模災害、環境汚染、感染症等の疾病、テロなどの人類共通の課題に取り組むことが重要であるとの認識を共有
- 2 今後とも、経済、文化、観光、教育、防災、環境などの幅広い分野での交流を継続・強化していくことを確認
- 3 市町の姉妹都市交流への支援、マリナー交流提携・教育分野友好協定に基づく交流活動の推進、日米草の根サミットの開催に向けての相互協力を確認

#### 《インズリー知事への県功労者表彰授与》

井戸知事よりインズリー知事に県功労者表彰（国際協力功労）を授与した。ワシントン州知事として5年にわたり兵庫県との友好交流促進に尽力し、今回の姉妹提携 55 周年事業のほか 50 周年事業の成功、スワンタウン・マリナーと新西宮ヨットハーバーとの互恵提携、行政・経済農業訪問団の兵庫県への派遣による各種交流の深化といった成果を導いてきた功績を称えたもので、集まった多数の両県州民から盛大な拍手が寄せられた。

#### 《フレイザー準備委員会委員長への記念品贈呈》

フレイザー氏は、今回の姉妹提携 55 周年記念事業のほか、50 周年記念事業においても準備委員会委員長を努め、両県州の交流促進に多大な功績を遺した。この功績に対し、井戸知事は特別に準備した似顔絵を記念品としてフレイザー氏に贈呈した。



井戸知事挨拶



インズリー知事挨拶



共同声明調印記念撮影



インズリー知事への県功労者表彰授与



フレージャー委員長への似顔絵贈呈



フレージャー委員長の似顔絵



インズリー知事から井戸知事に贈られた写真（5年前の50周年時に井戸知事が植樹したマグノリアの花）



インズリー知事公邸にて、知事自らが描いた画を井戸知事に紹介

## エ 州政府主催レセプション

- 日 時：7月27日（金）16:50～19:00
- 場 所：知事公邸、州議事堂中央ホール
- 参集者：約200名

### ＜ワシントン州側＞

ジェイ・ロバート・インズリー知事等の州政府関係者  
 サイラス・ハビブ上院議長等の州議会関係者  
 カーリン・ザーク・ブラック ワシントン州日米協会次期会長等のビジネス関係者  
 サンドラ・カイザー エバーグリーン州立大学副学長等の大学関係者  
 シェリル・セルヴィ市長等のオリンピア市政府関係者  
 カレン・フレイザー姉妹提携55周年事業準備委員会委員長等のボランティア関係者  
 マーカス・パキーザー ヤングズ・マーケット・カンパニー Sake 専任ディレクター (Sake Samurai)

### ＜兵庫県側＞

友好代表団	井戸知事 等	5名
県議会訪問団	松本議長 等	12名
経済交流団	角南団長（角南商事(株)代表取締役社長）等	20名
県民交流団	東根団長（県水産振興基金理事長）等	26名
県立大学訪問団	高坂理事兼副学長 等	3名
町村会訪問団	古谷副会長（稲美町長）等	3名
新西宮ヨットハーバー訪問団	境代表取締役社長 等	2名

オリンピア・加東市姉妹都市協会 中学生・高校生 等 14名  
久保田博信（株）神戸酒心館代表取締役副社長  
＜在シアトル日本国総領事館＞  
山田総領事

○内 容：

（サウスベイ小学校合唱団）

レセプションに先立ち、オリンピア市にあるサウスベイ小学校の合唱団が州議事堂中央ホールで歌声を届けた。サウスベイ小学校合唱団は、高校卒業後に日本から米国に渡ったソコリック・奈緒子氏の指導のもと日本の歌にも親しんでおり、「ワシントン・マイ・ホーム」（ワシントン州の歌）を英語で、「ふるさと」を日本語で、「世界が1つになるまで」を日本語と英語で届けた。そして、集まった両県州民からの盛大な拍手によるアンコールに応え、「世界が1つになるまで」を再度届けた。

（記念品交換・挨拶）

かわいい歌声による盛り上がりの余韻の中で、知事公邸へと場所を移してレセプションが開始された。冒頭、公邸芝生広場にて井戸知事とインズリー知事が記念品の交換を行い、井戸知事には5年前の姉妹提携50周年記念式典の際に植樹したマグノリアの花の写真が贈られ、井戸知事は和歌を披露した。

「両県州、教育 文化 青少年など交流重ねて、更に G o ! G o ! （55）」

そして、ハビブ上院議長と松本議長が挨拶を行った。

（鏡割り）

両県州の知事と議長、カレン・フレーザー姉妹提携55周年事業準備委員会委員長が壇上に上がり、日本酒の樽の蓋を木槌で割って姉妹提携55周年を祝った。この鏡割りは、ワシントン州をはじめとする米国に日本酒を輸出している神戸酒心館より、ノーベル賞晩餐会のテーブルを飾った「福寿」と「こも樽」を提供いただいたもので、神戸酒心館の久保田副社長が「福寿」を紹介し、ヤングズ・マーケット・カンパニーの Sake 専任ディレクターで日本酒造青年協議会による日本酒伝道師の称号「Sake Samurai」を叙任するマーカス・パキーザー氏が鏡開きを説明しながら、ワシントン州側の参集者に日本最大の酒処である兵庫らしいセレモニーを楽しんでもらった。

その後、両県州知事の乾杯の発声により知事公邸のドアが開けられて、両県州民の懇談となり、ハーブ奏者の演奏が会場の雰囲気を盛り上げた。



観客に手を振るサウスベイ小学校合唱団



かわいい合唱を鑑賞する両県州知事





鏡割り



インズリー知事から井戸知事への記念品贈呈

※レセプションは、ワシントン州の代表として知事が賓客をもてなすために 1909 年に建設された知事公邸で実施されたもの。

### オ ハビブ副知事（上院議長）との面談

○日 時：7月27日（金）15:20～15:30

○場 所：州議事堂副知事室

○参集者：8名

＜ワシントン州側＞

サイラス・ハビブ副知事

＜兵庫県側＞

井戸知事、松本議長、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

＜在シアトル日本国総領事館＞

山田総領事

○内 容：

ハビブ副知事（上院議長）には、県政 150 周年事業として9月に開催する姉妹州省サミットにワシントン州代表として出席いただくことになっており、井戸知事から感謝の意を伝えた。ハビブ副知事は、姉妹州省サミットへの参加は、種々の機会を活用して国際的なネットワークを広げるべきとのインズリー知事の考え方に沿うものと応えた。

また、井戸知事とハビブ副知事は、この後調印する姉妹提携 55 周年共同声明について、これまでの交流を確認するとともに、今後の交流の道筋を明示するものであることを確認した。

なお、ハビブ副知事は、歴代知事の肖像画も飾られる知事室において、兵庫県と姉妹提携を行ったロッセリーニ元知事の肖像画などを、井戸知事に説明した。



ハビブ副知事(中央)との記念撮影

### カ 兵庫県議会訪問団の州議会表敬訪問

○日 時：7月27日（金）13:30～15:00

○場 所：州議事堂

○参集者：18名

＜ワシントン州議会側＞

サイラス・ハビブ上院議長、ボブ・ハセガワ上院議員、シャロン・トミコ・サントス下院議員など州議会議員 7 名

<兵庫県議会側>

松本議長等 県議会訪問団 11 名

○内 容：

ワシントン州議会を表敬訪問し、サイラス・ハビブ副知事等と両県州のこれからの交流推進について意見交換を行った。

松本議長から、ワシントン州との親善交流をはじめ、日米関係諸団体との連携や

米国に対する理解を深めるため、これまで各種の取組を行ってきたことを伝えるとともに、今回姉妹提携 55 周年に合わせて

州議会への訪問が実現したこと、両県州の友好交流の促進に向けた州議会議員はじめ関係者の理解や尽力に対して、敬意を表する旨を伝え、州議会からも歓迎の意が表された。

交流協議においては、地域を活性化させる方策としての起業推進やワシントン州の多様性の象徴である移民政策の課題、政策ごとの投資のあり方などをテーマとして、両県州の実情や取組、今後の連携方策の展開などについて、議員間で活発な意見交換がなされた。

最後に、今回の訪問を契機に、議会間をはじめとして、引き続き両県州の友好関係を深化させていくことを確認した。



意見交換の様子

## キ TVW（ワシントン州公共テレビ局）視察

○日 時：7月27日（金）14:30～15:10

○場 所：TVW

○参集者：8名

<テレビ放送局側>

レニー・ラドクリフ・シンクレア代表、ミルス・ベイ副代表（プログラム担当）  
カレン・フレイザー姉妹提携 55 周年事業準備委員会委員長

<兵庫側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シアトル日本国総領事館>

山田総領事

○内 容：

州政府キャンパス内にあるワシントン州公共テレビ局（TVW: Washington State's Public Affairs Network）は、「政府の活動を知る権利」をスローガンに草の根的に声が高まって1995年に開設された。知事記者会見、議会審議、各種公式行事などを生放送するほか、独自の番組制作も行っているが、番組制作にあたっては多方面の視点に立つことを理念としている。当初はケーブルテレビ放送であったが、現在はインタ



マスターコントロール室見学

ーネット放送にも取り組んでおり、予算的には、プライベートファンド 80%、州政府からの委託 20%となっている。

ワシントン州との周年記念行事が州議事堂で開催されたことから、州政府キャンパス内にあるこのテレビ局を訪問して話を伺うとともに、局内のマスターコントロール室やスタジオを見学した。

## ②経済・観光・草の根交流 関連行事

### ア ワシントン州日米協会との意見交換会

○日 時：7月28日(土) 15:00～16:30

○場 所：アマゾン本社 Day 1 ビル内会議室

○参集者：12名

＜日米協会側＞

カーリン・ザーク・ブラック次期会長（シアトル港湾局渉外担当リエゾン）

中村武由（アマゾン・ウェブ・サービス社事業開発本部マネージャー）

ショーコ・ファーナー（ラッセル・インベストメント上級プロダクト・マネージャー）

サトコ・バルデス（モス・アダムズ社（会計・コンサルタント会社）税法専門家）

ナオコ・イノウエ・シャッツ（シャッツ弁護士グループ 会社法弁護士）

カナコ・マツモト（パターソン・サリバン会計事務所 会計士）

峰岸良彰（ワシントン州日米協会理事）

デール・ワタナベ（ワシントン州日米協会事務局長）

＜兵庫県側＞

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

○内 容：

1923年に日米の相互理解を深める目的で設立された、ワシントン州で最も歴史がある非営利団体・ワシントン州日米協会の会員と面談した。

ブラック次期会長から日米協会の活動のトピックスを説明いただくとともに、井戸知事からはワシントン州のインズリー知事との交流協議にかかる要点を説明した後、日米協会側参加者が自己紹介を行いながら意見を交換した。

《ブラック次期会長》

ワシントン州日米協会は、草の根や教育の交流を中心に活動を展開している。今年9月にはシアトルにて日米草の根交流サミットが開催され、来年6月には同事業が兵庫・姫路にて開催される。来年の兵庫・姫路での開催にかかり、シアトルでの経験に基づく有用な情報があれば伝えるとともに、支援できることがあれば支援させていただく。

また、約20年前から、アメリカの子供たちに日本の小学校の一日を紹介するビデオ等を作成してアメリカの小学校で教材として使ってもらう「ジャパン・イン・ザ・スクールズ」という事業を展開している。

さらに、約4年前からは、日本の子供たちにアメリカの小学校の一日を紹介するビデオ等を作成して日本の小学校で教材として使ってもらう「アメリカ・イン・ザ・スクールズ」に取り組み始めた。すでに45分間の英語ビデオを作成して、日本の教育委員会や小学校に売り込みをしているが、その反応は芳しくない。

《井戸知事》

（英語教材の活用）

ご説明があった「アメリカ・イン・ザ・スクールズ」について、実際のビデオ教材を送ってほしい。再来年から小学校でも英語が必須になるような流れにおいて、一度教育委員会にも活用の可否を検討させる。

(両県州の共通点)

昨日のインズリー知事との交流協議において、兵庫県とワシントン州は共通点が多いことが話題になった。自身として思う共通点は、①港を中心とした発展、②ものづくり産業の優位性、③地震対策の必要性、④漁業・林業の重要性、⑤青少年を含む人づくりの重視、⑥ライフサイエンスの集積といったことであり、これらについては両県州の連携・交流が進みやすいと思う。

(情報産業の拠点化)

また、兵庫県は情報通信分野の優位性に乏しいことから、「来たれ!! IT 企業の挑戦者たちよ!」というスローガンのもとカリスマ人材を本県へ呼び込むための補助制度を創設(最大3年間で3,650万円)するなど、その振興に力を入れている。一方、ワシントン州は世界的な情報通信産業の集積地であり、兵庫県としてはワシントン州のネットワークを上手く活用させていただきたいと考えており、ここにいらっしゃるアマゾンの中村さんのような方には是非力を貸してほしい。

《中村 アマゾン・ウェブ・サービス社マネージャー》

アマゾンの売上の約10%が日本であり、日本人のIT専門家も10%いてよいはずであるが、実際には300名しかいない。中国やインドのように米国に渡って先端企業で働こうとするような人材の育成が重要である。こうした人々が帰国して起業するのである。

《峰岸 ワシントン州日米協会理事》

私は芦屋市出身であるが、大阪、京都は地域のイメージがあるが兵庫県は各地域で違いがあり、イメージがない。世界の観光客に紹介するには、兵庫県を魅力的な観光地としてブランディングする必要がある。IBMのマーケティング・セールス担当として30年間勤務した経験があり、兵庫県のインバウンド誘客戦略などに力を貸すことは出来る。



参集者記念撮影



意見交換の様子

## イ 現地グローバル企業視察 (7) エクスペディア社視察

○日 時：7月27日（金）9:30～11:00

○場 所：エクスペディア本社

○参集者：10名

<エクスペディア社側>

ハリー・ネアー エクスペディアグループ メディアソリューションズグローバル上級副社長

ウマン・チョードリー エクスペディアグループ ロジックパートナーサービス社副社長

ローガン・スコット エクスペディアグループ ロジックパートナーサービス社副社長(人事担当)

サラ・ワフル・ガヴィン エクスペディアグループ グローバルコミュニケーション部門副社長

モンヤ・マンディッヒ エクスペディアグループ メディアソリューションズアジアディレクター

ジェイソン・パク エクスペディア社渉外部長

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

○内 容：

兵庫県は、今年4月、エクスペディアホールディングス㈱（世界最大のオンライン旅行社であるエクスペディア社の日本法人）と「観光・地域活性化連携協定」を締結して、本県へのインバウンド誘客にかかる連携関係を構築している。そこで、米国本社であるワシントン州ベルビュー市のエクスペディア社を訪問して、誘客マーケティングなどについて意見を交換した。また、エクスペディアの予約サイトを見る目線を追いかけてながら、サイトの不便を見つけ出すテスト室を視察した。

《井戸知事挨拶》

今年4月、日本法人のマイケル・ダイクス代表取締役と協定を締結して、エクスペディアの実績、経験、ビッグデータを活用させていただくなど、兵庫のインバウンド振興をお手伝いいただくことになった。早速7月には、県内3カ所で「ビッグデータを活用した効果的なインバウンド集客」と題したセミナーを開催したほか、米国、韓国、香港のエクスペディア社ウェブサイトでの兵庫観光プロモーションを開始した。

かつて、大阪、京都、神戸は観光客が集まる3都とされていたが、いまや2都1/4のような状況で、エクスペディアと連携しながら挽回を図りたい。

《エクスペディア社説明》

エクスペディア社は、宿泊施設や航空券等の旅行予約ウェブサイト運営会社というだけではなく、各種観光情報の発信等も含めた旅行をするためのプラットフォームと考えていただきたい。そして、エクスペディアのみならず、ターゲットに応じた様々なブランドを有している。エクスペディア、ホテル・ドット・コムが世界全体の一般的なブランドであるのに対し、ユーゲンシアは法人ビジネス、ホーム・アウェイは長期滞在ビジネス、ワットイフは各地域ビジネスのブランドである。

エクスペディアグループのモットーは、①顧客に喜んでもらえる経験の蓄積、②世界各地を旅しても地元にいるよう安心感の提供、③宿泊施設、エアライン、レンタカーといった供給側情報の最大化、④航空会社が宿泊施設を販売、銀行が旅行商品を販売するような、業界をまたぐ観光ビジネス展開の支援、⑤ビッグデータの顧客との共同活用、⑥社員が満足を感じる職場環境の創造である。

連携協定を締結している兵庫県をはじめとする自治体や観光地の観光振興にか

かる支援も展開している。売り込む観光資源を絞り込み・明確にさせていただいた後に、エクスペディアはウェブ上で広告プロモーションを展開して、ビッグデータを活用しながらその効果を検証し、プロモーションの修正を図っていく。

ご理解いただきたいのは、エクスペディアは米国やアジア・太平洋地域によく知られており、オーストラリア人の取扱いも増えている。これら顧客は長期滞在の傾向が強く、訪日のある程度前には行程を作って急に予約変更するようなことは少ないことから、顧客の行程検討のタイミングで効果的に兵庫県を売り込むことが必要ということである。

#### 《質疑応答》

##### 知事 Q)

兵庫県は団体旅行をインバウンド誘客の主要なターゲットとしておらず、リピーター旅行、家族旅行に訪れて欲しいと考えている。兵庫県としてもターゲットやアプローチをいろいろ考えるが、それが適切でない場合もあり、エクスペディアのビッグデータにより兵庫を訪れる動機などが浮き彫りになればありがたいが、アドバイスをいただきたい。

##### エクスペディア A)

現在、兵庫県と実施している海外ウェブプロモーションがまさしくそのアドバイスであり、そのプロモーションを通じて兵庫を訪れる旅行者の属性や動機などについてもある程度分析できないかと思っている。エクスペディア側からの要求は、ベストなコンテンツ・情報を提供いただくことである。

##### 知事 Q)

兵庫にはいろいろなコンテンツがあるが、例えば代表的な観光資源である姫路城について、周辺で宿泊してもらえないという課題があり、アドバイスをいただきたい。

##### エクスペディア A)

売り込む宿泊施設について、姫路城にいかにか近いかということと、お得な情報を組み合わせうまく発信できれば、効果は出ると考える。



社屋ビル外観



意見交換の様子

#### (イ)無人コンビニエンスストア Amazon Go 視察

○日 時：7月28日(土) 14:20~14:50

○場 所：Amazon Go 店舗

○参集者：5名

<アマゾン側>

中村武由 アマゾン・ウェブ・サービス社事業開発本部マネージャー

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

○内 容：

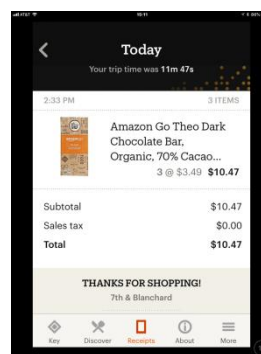
デジタル技術が小売業にもビジネス革新をもたらそうとしており、今年1月、アマゾンはシアトル市内に Amazon Go をオープンして、レジ無しコンビニエンスストアの実験を開始した。

今回、中村 アマゾン・ウェブ・サービス社事業開発本部マネージャーより説明を受けながら店舗内を視察した。天井に多くのカメラが設置される店内へは、スマートフォンを店舗入口ゲートにかざしてから入場し、購入する商品を棚から手にとって、出口ゲートを通して店舗から出るだけで決済が終わり、レシートがあとからスマートフォンに送られる仕組みになっている。

知事は、「人口減少が進む中で、店舗の維持が難しい過疎地をはじめ、今後の日本ではこうしたシステムの導入ニーズが高まっており、是非日本にもどんどん進出してほしい」とコメントした。



店舗前での記念撮影



商品を購入してから5分後にスマホに送られたレシート

## ウ 在シアトル日本国総領事表敬訪問・歓迎夕食会

○日 時：7月28日（土）17:30～19:00

○場 所：総領事公邸

○参集者：8名

<総領事館側>

山田洋一郎 総領事、石川貴之 領事

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<ワシントン州側>

カーリン・ザーク・ブラック シアトル港湾局渉外担当リエゾン（元神戸市派遣 国際交流員）

ステイシー・ジェリック シアトル市国際局長（元神戸市派遣 国際交流員）

○内 容：

《山田総領事》

兵庫県ワシントン州事務所の河知所長はいろいろな会合に顔をだされており、ワシントン州における兵庫県の関わりの広さ・深さがよくわかる。日米草の根交流サ

ミットの実施に関しても、兵庫県とワシントン州の存在は非常に心強い。

《井戸知事》

草の根交流の重要性に言及いただいたこと、我が意を得たりである。草の根交流がしっかりしていればどんな厳しいときにも乗り越えられる。兵庫県は広東省と長きにわたり草の根をはじめとする各種交流を推進してきた結果、日中関係が緊張している時にでも、訪問を歓迎してくれる。続けることの重要性を改めて認識したい。

## エ 兵庫県・神戸市ワシントン州共同事務所訪問

○日 時：7月28日（土）14:10～14:20

○場 所：県ワシントン州事務所

○参集者：5名

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長、永峰神戸シアトルビジネスオフィス代表（ワシントン州事務所副所長）

○内 容：

経済機能の強化のため、2014年にシアトル郊外からシアトル中心部のビジネス街へ移転した県ワシントン州事務所は、神戸シアトルビジネスオフィスとの共同事務所として活動しており、関西広域連合シアトル事務所、兵庫県立大学シアトル事務所としての機能も担っている。井戸知事は、移転後の事務所をはじめ訪れ、神戸市と一体となった交流事業の推進の様子を視察した。

県市の事務所の共同化により、相互支援がとられ共同作業ができ、また関係先の拡大が評価されている。



事務所内見学(中央が永峰代表)

## オ ベインブリッジ・アイランド視察

○日 時：7月28日（土）9:50～12:00

○場 所：ベインブリッジアイランド日系人強制収容メモリアル  
ベインブリッジ・オーガニック蒸留所  
ストーリービレ・コーヒー焙煎所

○参集者：約40名

＜ワシントン州側＞

スカイラー・ホス ワシントン州国際局長

デール・ワタナベ ワシントン州日米協会事務局長

マツエ・ワタナベ（強制収容経験者・デールの母）

ケイス・バーネス ベインブリッジ・オーガニック蒸留所社長

アンナ・ペダーセン ストーリービレ・コーヒー焙煎所メニュー・ダイレクター

＜兵庫県側＞

友好代表団 井戸知事 等 5名

経済交流団 鈴木団員（神戸ロイヤルカレッジ学院代表取締役学院長）等 3名

県民交流団 東根団長（県水産振興基金理事長）等 26名

県立大学訪問団 高坂理事兼副学長 等 3名



○内 容：

シアトルからピュージェット海峡を挟んで対岸にある日系移民開拓の島として知られるベインブリッジアイランドを訪問し、第二次世界大戦時に強制収容された同島日系人のメモリアル施設、日系人の思いを込めたウイスキー等を製造する蒸留所、シアトル拠点のコーヒー専門店の焙煎所を視察した。

《ベイブリッジアイランド日系人強制収容メモリアル》

第二次世界大戦中の1942年3月30日、米国西海岸に居住していた日系人が強制収容所に送還された最初のケースである同島を視察した。当時、同島には227名の日本人が居住しており、フェリーに乗るために向かった道にはメモリアルの壁が作られ、「二度と無いように」と同様の人種隔離政策が行われないよう願いが込められていた。

また、当時14歳で家族とともに同島から収容所に向かったマツエ・ワタナベさんから、船と列車で3日間かけてカルフォルニア州の収容所に向かったことやアメリカの悲しい歴史の一つであるが、それを乗り越えて今があることなど貴重な意見を聞くことができた。さらに、このような歴史的遺産の保存にインズリー知事が力を入れていることも紹介された。



マツエ・ワタナベさんの説明



集合写真

《ベイブリッジ・オーガニック蒸留所》

ワシントン州で唯一であり世界で7カ所しかない100%オーガニックのウイスキー蒸留所を視察した。同蒸留所のウイスキー「Yama (山)」は、2016年の第23回ベスト・クラフト・ウイスキー賞を受賞。商品名は同島南部にある日本人入植地の地名「山」に由来している。販売価格500ドルのうち400ドルは、日系人強制収容の歴史に関する保存の支援金として活用されている。また、樽には取り扱いが難しい北海道産ミズナラの木を使用しており、時々漏れが発生するが、独特の香りが加わり、美味しいウイスキーになることが紹介された。



レクチャーの様子



日本人入植地の地名に由来するウイスキー

### 《ストーリービレ・コーヒー焙煎所》

手作りにこだわったコーヒー豆焙煎所。同店スタッフがきめ細やかな作業をすることにより通常より短い時間での焙煎を可能としている。12分程度の早い焙煎時間を特色としコーヒーの激戦区シアトルで店舗展開を進めているほか、人権問題に取り組む団体を支援するなど社会的な活動にも力を入れている。

### カ シーフエア・トーチライト・パレード視察

○日 時：7月28日（土）19:30～

○場 所：シアトル・ダウンタウン

○参集者：8名

＜ワシントン州側＞

カーリン・ザーク・ブラック シアトル港湾局渉外担当リエゾン（元神戸市派遣 国際交流員）

ベンジャミン・エリクソン シアトル・神戸姉妹提携委員会会長

＜兵庫県側＞

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長  
農端 神戸お祭り大使

＜在シアトル日本国総領事館＞

山田総領事

○内 容：

夏の訪れを伝えるシアトルの一大イベント「シーフエア」。約2カ月にわたるこのイベントの目玉「トーチライト・パレード」が開催されており、100以上のコミュニティグループが参加のもと、シアトルセンターからダウンタウンの4番街を行進するパレードの賑わいを視察し、パレードに参加した「神戸お祭り大使」の農端結希(のばた ゆき)さんを激励した。



パレードの様子



観客に手を振る農端さん

## (2) ネブラスカ州（リンカーン）における経済等交流活動

### ①リケッツ知事との経済交流協議

○日 時：7月26日（木）9:00～9:45

○場 所：州議事堂知事室

○参集者：15名

＜ネブラスカ州側＞

ピート・リケッツ知事

デイブ・リッピ経済開発局長

ジェームス・ゴールセン連邦政府商務省アジア担当エグゼクティブディレクター

クリス・ボイトラー リンカーン市長

ソニア・フェーゲンバウム ネブラスカ大学副学長（国際交流担当）

＜兵庫県側＞

井戸知事、角南経済交流团团長（角南商事(株)代表取締役社長）、高坂県立大学訪問団

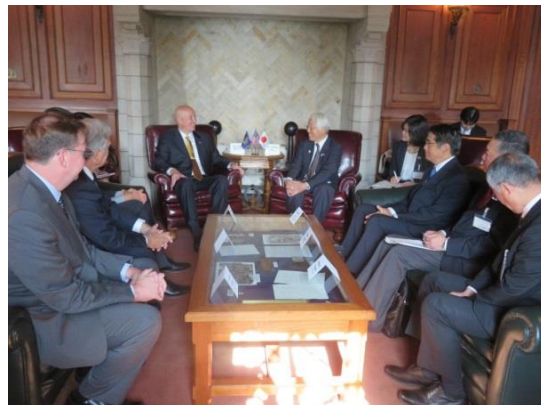
団長（県立大学理事兼副学長）、水口国際局長、藤原県立大学事務局副局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シカゴ日本国総領事館>

伊藤総領事、中村領事

#### ○内 容

ネブラスカ州には、川崎重工業の米国基幹工場をはじめ県内企業4社が進出しており、昨年9月にはリケッツ知事を団長とするネブラスカ州経済団が兵庫県を訪れて、井戸知事に経済分野を中心とした相互協力が呼びかけられた。これらを背景に、両県州は、投資、先端製造業、航空宇宙、農業等の分野における経済交流を促進することをはじめ、進出企業のビジネス展開の相互支援、経済訪問団の派遣に際してのセミナーや展示会などの連携実施を確認したほか、国際的な産業人材の育成についても協力していくことに合意した。



交流協議の様子

#### ②共同声明調印式 ※別添資料5参照

○日 時：7月26日（木）9:45～10:15

○場 所：州議事堂内ホール

○参集者：約50名

<ネブラスカ州側>

ピート・リケッツ知事

デイブ・リッピ経済開発局長

ジェームス・ゴールセン連邦政府商務省アジア担当エグゼクティブディレクター

クリス・ボイトラー リンカーン市長

ソニア・フェーゲンバウム ネブラスカ大学副学長（国際交流担当） 等

<兵庫県側>

井戸知事、経済交流団（団長：角南忠昭 角南商事(株)代表取締役社長）、県立大学訪問団（団長：高坂理事兼副学長）、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シカゴ日本国総領事館>

伊藤総領事、中村領事

○内 容：

【調印式】 ※別添資料6参照

井戸知事とリケッツ知事は、ネブラスカ州・連邦政府・リンカーン市・ネブラスカ大学リンカーン校の関係者、兵庫県経済交流団、兵庫県立大学訪問団が見守る中、両県州が経済分野を中心に相互協力していくことを確認した共同声明に調印し、固く握手を交わした。

また、兵庫県立大学とネブラスカ大学リンカーン校は、前日に学術交流協定を締結しており、共同声明調印式場で、兵庫県立大学の高坂理事兼副学長とネブラスカ大学リンカーン



調印した共同声明の披露

校のフェーゲンバウム副学長が壇上に立ち、大学間協定締結について報告した。

この共同声明調印に対する地元の関心は高く、井戸知事は調印式終了後に地元テレビの取材を受けて、その様子がすぐに報じられた。

#### 《リケッツ知事》

経済交流団を率いてこれまで2回日本を訪れ、昨年9月の訪問時には兵庫県にも赴き井戸知事と面談した。その際、兵庫経済のダイナミックなエネルギーを感じた。

ネブラスカ州には、川崎重工業（鉄道車両・四輪バギー等製造）をはじめ、安福ゴム工業（ゴム・プラスチック部品等製造）、指月電機製作所（コンデンサー製造）、フレモント・ビーフ・カンパニーの社名でビジネスを展開するエスフーズ（食肉加工）といった兵庫県企業が進出しており、ネブラスカ州と兵庫県は既につながりを有している。

本日の共同声明調印を契機に、そのつながりが一層強くなることを期待するとともに、ネブラスカ州の企業にも兵庫県のことをもっと知ってもらいたいと考えている。今年9月には、ネブラスカ州で「第50回日本・米国中西部会日米合同会議」が開催されるが、ネブラスカ州企業はもとより、兵庫県企業にも是非参加してもらいたい。

#### 《井戸知事》

昨年ネブラスカ州が150周年、今年兵庫県が150周年という節目に両県州が共同声明に署名できることは光栄である。

昨年9月に兵庫県でリケッツ知事とお会いした際、次はネブラスカでということになり、本日それが実現できて嬉しく思う。今回、兵庫県の経済訪問団にも同行してもらっているが、参加企業にはネブラスカ州の素晴らしさを知ってもらい、これからの両県州の交流を先導する役割を担ってもらいたい。また、兵庫県立大学とネブラスカ州立大学リンカーン校が学術交流協定を締結しており、若い世代の交流が活発になることも期待したい。

#### 《伊藤総領事》

本日は、兵庫県とネブラスカ州との関係における歴史的な日であり、そこに立ち会うことができたのは光栄である。

共同声明の署名により、両県州が経済分野を中心に関係を強化し、さらにその関係強化が双方向に向かうことを願っている。

#### 《共同声明の概要》

- 1 両県州は、投資、先端製造業、航空宇宙、農業等の分野での経済交流を促進
- 2 進出企業のビジネス展開の相互支援、経済訪問団の派遣に際してのセミナーや展示会などの連携実施を確認
- 3 国際的な産業人材の育成について協力

### ③大学間学術交流協定締結式 ※別添資料6参照

○日 時：7月25日（水）9:30～10:45

○場 所：ネブラスカ大学リンカーン校 ラブ図書館南棟

○参集者：8名

＜ネブラスカ大学リンカーン校側＞

ソニア・フェーゲンバウム副学長、メーガン・スティーブンスーリスカ国際戦略室

長、レイチェル・アヤロン国際戦略官、クリス・ダンスモア ESL センター長、  
ジョン・ケリガン パートナーシップ・交流コーディネーター

<兵庫県立大学側>

高坂理事兼副学長、藤原副局長兼教育企画部長、松浦教育改革課主幹

○内 容：

兵庫県立大学の理事兼副学長とネブラスカ大学リンカーン校は、双方の大学の教育・研究目標に向けて共同して推進することに合意し、学術交流協定を締結した。

兵庫県立大学は、来年4月に新設する国際商経学部  
にすべての科目を英語で学ぶ「グローバルビジネス  
コース」を設置し、キャンパス内に国際学生寮を整備  
することとしており、ネブラスカ大学リンカーン校と学  
術・教育交流を活発にしていくことを確認した。



調印の様子

#### ④ひょうご経済セミナー

○日 時：7月26日(木) 10:30~12:45

○場 所：ネブラスカ・クラブ

○参集者：約80名

<ネブラスカ州側>

ピート・リケッツ知事、デイブ・リッピ経済開発局長、  
ジェームス・ゴールセン連邦政府商務省アジア担当エグゼクティブディレクター、  
クリス・ポイトラー リンカーン市長等の州・連邦・市政府関係者  
ネブラスカ州内の商工会議所・企業関係者

<兵庫県側>

井戸知事、経済交流団(団長：角南忠昭 角南商事(株)代表取締役社長)、県立大学  
訪問団(団長：高坂理事兼副学長)、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシ  
ントン州事務所長

<在シカゴ日本国総領事館>

伊藤総領事、中村領事

○内 容

両県州が調印した共同声明のキックオフイベントとして、両県州知事、在シカゴ日本  
国総領事、ネブラスカ州・連邦政府・リンカーン市の政府関係者、ネブラスカ州内の商  
工会議所・企業関係者、兵庫県経済交流団、兵庫県立大学訪問団が州議事堂近くのネブ  
ラスカ・クラブ(ビジネス会合施設)に参集し、「ひょうご経済セミナー」を開催した。

《リケッツ知事の挨拶》

井戸知事、経済交流団、県立大学訪問団のリンカーン来訪を心から歓迎する。ネブ  
ラスカ州と日本・兵庫県企業は長い関係を有する。川崎重工業が好例であり、リンカ  
ーン工場立上げから40年以上になるが、工場建物は年々拡張され、現在の延床面積は  
17万㎡に達し、従業員も増加して、現在約2,000名が働いている。

2010年以降、日系企業はネブラスカ州に44億ドルの投資を行い、約1万人の雇用  
を創出した。ネブラスカ州政府は、日系企業との関係をさらに強固なものにするため、  
ビジネス環境の整備に一層力を注いできた結果、各種メディアの調査において全米で  
もトップクラスと投資環境と評価されている。また、1万3,000人の州政府職員全員

にトヨタが開発したトレーニングプログラムを受講させて、州政府の業務を民間のように効率化し成果を創出している。例えば、失業者に対しては、給付金を支給しながらも、ジョブコーチをつけることを条件にして再就職の手立てを身に付けてもらうこととしたことにより、失業給付が25%減少して税収の拡大につながっている。

自身、昨年9月に兵庫県を訪れたが、経済的にダイナミックなエネルギーに包まれ、日本に関心を有するネブラスカ州企業には、まず兵庫を紹介したいと感じた。また、ネブラスカ州と兵庫県は「家族が大事」、「教育が大事」、「倫理が大事」という価値観を共有しており、本日のセミナーを通じて、ネブラスカ企業と兵庫企業の新たなつながりが生まれることを期待する。



リケッツ知事の挨拶

《井戸知事のプレゼンテーション「ひょうご・神戸の経済を支える産業の魅力」》

※別添資料7参照

兵庫県が今年150周年を迎え、ネブラスカ州が昨年150周年を迎え、両県州は150周年の兄弟とも言える。五つの地域が一つになったのが兵庫で、兵庫の歴史は神戸港の歴史であり、初代の兵庫県知事は後に初代首相となる伊藤博文である。ネブラスカ州に進出する兵庫県企業の代表格は川崎重工業であり、ネブラスカ工場ではボーイング社の最新鋭旅客機777X用の貨物室扉を組み立てるようになったが、兵庫の明石工場では航空機エンジンの製造ラインが稼働している。

兵庫の産業に関して、航空機、ロボット、次世代エネルギー、医薬品といった新しい分野を育てることが重要であり、航空機分野の成長に向けては、国内初の非破壊検査トレーニングセンターを開設した。また、水素分野においては、川崎重工業が新しい水素の製造実験をはじめている。

研究開発では、シミュレーション拠点としてスーパーコンピューター「京」が、分析拠点としてSPring-8とSACLAを有しており、兵庫のこれら施設を活用することにより、予想・シミュレーションと分析の繰り返しが高精度で実施できる。

兵庫には37の大学が立地しており、現在の留学生数は約4,500名であるが、ネブラスカ大学リンカーン校と学術交流協定を締結した兵庫県立大学には来年からグローバルビジネスコースが設置されることから、ネブラスカ州からの留学生も期待しているところである。また、外国人学校や外国人コミュニティが充実し外国人が住みやすい環境が整うことが兵庫県の強みの一つと認識しているが、マツダと提携したフォードの外国人エグゼクティブが平日は広島で単身赴任し、土日に神戸の家族のもとに戻るといった例はこのことを裏付けるものである。



井戸知事のプレゼンテーション

外国人旅行者の誘客にかかり、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは世界でもよく知られているが、兵庫・関西では、2019年のラグビーワールドカップ、2021年のワールドマスターズゲームズ関西までの3年間で「ゴールデンスポーツイヤーズ」として世界にアピールしている。生涯スポーツの祭典であるワールドマスター

ズゲームズには、私自身水泳で参加するつもりであるが、リケッツ知事には琵琶湖が会場のサイクリングでは是非参加してもらいたい。

《リッピ経済開発局長のプレゼンテーション》

本日、ネブラスカ州と兵庫県が経済分野にかかる相互協力の共同声明に調印し、また昨日は、ネブラスカ大学リンカーン校と兵庫県立大学が学術交流提携を締結した。

経済開発局長として、これら兵庫県との新たな関係の構築は嬉しいニュースであり、投資や学生交流の拡大に期待したい。

ネブラスカへの投資の魅力のキーワードは、「ネブラスカに行けばチャンスが」、「最高のビジネスの目的地」、「労働力はワールドクラス」、「市場へのアクセスも早い」、「産業の先端に行く」、「自由貿易地域が2箇所」、「電気通信も充実」、「豊富なビジネス優遇策」、「類を見ないチャンスが」である。

ネブラスカ州には、大規模トラック運送、製造、光ファイバー、バイオサイエンス、食品加工、農業といった分野の企業が集積している。今回ご参集の兵庫県企業の皆さまには、ネブラスカ州とのビジネス、ネブラスカ州でのビジネスを是非検討いただきたい。

《ゴールセン連邦政府商務省アジア担当エグゼクティブディレクターのプレゼンテーション》

連邦政府商務省としても日本は重要なパートナーと認識しており、今回井戸知事が経済交流団を率いてネブラスカ州を訪問いただいたことに感謝する。ワシントン DCでは地下鉄を利用しており、その車両は川崎重工業が製造することも承知している。

連邦政府としても、企業と企業をつないで投資を呼び込むことはますます重要と理解しており、「セレクト USA」という対米投資促進プログラムを実施している。このプログラムでは、企業がネブラスカ州をビジネスターゲットとする一方、ネブラスカ州への参入の障害がある場合には、ネブラスカ州政府とも連携しながらその障害を取り除く方法を検討する支援なども行っている。東京の米国大使館、大阪の米国総領事館にも、セレクト USA 専従のフルタイムスタッフを配置しており、米国とのビジネス・投資に関心を有する兵庫県企業関係者には、是非そのスタッフを活用してもらいたい。

《経済交流団参加企業の紹介》

経済交流団の赤木副団長（ひょうご産業活性化センター理事長）より、団長企業である角南商事(株)をはじめ、経済交流団参加企業・団体 12 社の概要を順に紹介した。

角南商事(株)、谷商(株)、トレーディア(株)、川崎重工業(株)、  
(株)神戸製鋼所、三和鉄工(株)、安福ゴム工業(株)、中田工芸(株)、  
神戸ロイヤルグルーミング学院、(株)マキシン、JETRO 神戸、  
兵庫県信用保証協会



セミナー会場



赤木副団長の経済交流団企業紹介

### ⑤カワサキモーターズ・マニュファクチャリング社リンカーン工場視察

○日 時：7月26日（木）13:10～15:40

○場 所：カワサキモーターズ・マニュファクチャリング社（KMM）リンカーン工場

○参集者：約30名

<川崎重工業側>

KMM： 田畑穰社長、マイク・ボイル副社長、ブライアン・ソーサーマン副社長

川崎重工業本社： 細川勝伸 総務本部長、山口知佳 海外二部長

<兵庫県側>

井戸知事、経済交流団（団長：角南忠昭 角南商事(株)代表取締役社長）、県立大学訪問団（団長：高坂理事兼副学長）、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シカゴ総領事館>

伊藤総領事、中村領事

○内 容

川崎重工業のリンカーン工場は、同社米国モーターサイクル事業の製造部門として1974年に設立され、1981年にカワサキモーターズ・マニュファクチャリング社として独立。その後、需要の高まりを受けて工場を拡張し、現在では甲子園約50個分の広大な敷地の中で、約2,000名の従業員が働いており、ネブラスカ州最大の製造現場となっている。

ネブラスカ州に進出した理由として、米国の交通網の中心地にあたり東西両地域への輸送に便利なことや勤勉で教育水準が高い労働人口が多いこと、さらに、州政府など地元が非常に協力的であったことが挙げられた。

同工場は「四輪バギー・多用途四輪車」や「ジェットスキー」、「航空機部品」、「鉄道車両」などを製造しており、川崎重工業グループの米国での最大の製造拠点であるとともに同社のグローバル化を牽引している。兵庫県を代表する企業が、米国中西部を製造拠点に対米ビジネスを展開している現場の視察を行った。

《四輪バギー》

米国では四輪バギーなどのATV（All Terrain Vehicle／全地形対応車）の需要が高く、牧場などの業務用のほか、レジャー用としても幅広く活用されている。かつては三輪が主流であったが、米国内で転倒事故が相次いだことから次第に四輪にシフトし、同工場でも現在は四輪車のみを製造しており、毎月約300台が出荷されている。



ATV(全地形対応車)製造工程



### 《ジェットスキー》

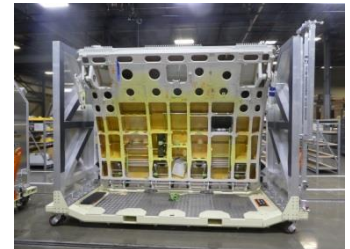
日本にも輸出しているジェットスキー（パーソナルウォータークラフト）は、専用装置による成型、ロボットを活用したウォータージェットによる穴開け加工を採用することで、生産性の向上と精度の高い製品が製造されていた。



ジェットスキー製造工程

### 《航空機部品》

2017年1月に新工場が完成し、ボーイング社の最新鋭旅客機777Xの貨物室扉の組立を開始した。777Xの貨物室扉には大きなものから小さなものまでであるが、大きな扉を組み立てる新工場であり、開所式にはリケッツ知事も出席するなど、成長産業に対する同社の取り組みに地元が大きな期待を寄せていることがうかがえる。



旅客機貨物室扉製造工程

### 《鉄道車両》

450m×100mの広大な工場の中でワシントンDC、ニューヨーク、ロングアイランドの地下鉄車両などが製造されていた。製造工程間の移動はレールではなくエアリフト台車が採用され、製造ラインのレイアウトが柔軟に変更でき、作業負担の異なるさまざまな車両の製造に対応できる高効率でフレキシブルな生産体制が構築されていた。

なお、ニューヨーク市営地下鉄の車両については、バイアメリカン法令に基づき、ニューヨーク州の同社ヨンカーズ工場の最終工程で組み立てられている。

## (3) インディアナ州（インディアナポリス）における経済等交流活動

### ①ホルコム知事表敬訪問

○日時：7月25日（水）15:30～16:00

○場所：州議事堂知事室

○参集者：12名

＜インディアナ州側＞

エリック・ホルコム知事

ジェームズ・シェリンジャー商務長官

カイ・チャック アジア担当課長

ピーター・モース 在インディアナポリス日本名誉総領事

テレサ・コザック インディアナ日米協会専務理事

中山正澄 アドバイザー

＜兵庫県側＞

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

＜在シカゴ日本国総領事館＞

伊藤総領事、中村領事

### ○内 容

井戸知事は、イーライリリー アンド カンパニーを訪ねるためインディアナ州を訪問した際、ホルコム知事を表敬訪問した。兵庫県とインディアナ州は、ものづくり産業が盛んであるという点を共有



ホルコム知事との記念撮影

しており、トランプ政権が検討を進める米国自動車関税にかかる影響について意見交換するとともに、両県州の連携についても話を進めた。

また、イーライリリー アンド カンパニーの本社が立地するインディアナ州と神戸医療産業都市構想を推進する兵庫・神戸との、「創薬」や「健康」といったテーマでの連携についても言及された。

#### 《井戸知事》

兵庫県には、イーライリリー アンド カンパニーの本社が立地していることもあり、これまでからインディアナ州を訪れたかったが、今回それが実現した。

インディアナ州は、トヨタ、ホンダ、スバルの大手自動車メーカーを代表とする多くの日系企業が進出する「ものづくり」の州という側面があり、兵庫県からも神戸製鋼所などが拠点を設置している。そして、インディアナ州の重要なパートナーである日本は、トランプ政権が検討を進める米国自動車関税に大きな懸念を抱いており、もし25%といった関税がかけられた場合、大きな打撃を被ることは間違いない。

兵庫県は、ものづくり産業の強みという点でインディアナ州とは共通している。兵庫県には自動車メーカーはないが、自動車部品産業は基幹産業の一つであり、検討が進められる関税が実施された場合の兵庫県経済への影響も大きく、懸念している。このことから、日系企業と手を携えているインディアナ州には、この自動車関税の問題にかかり、トランプ政権に対して「慎重であるべき」と伝えてもらいたい。

イーライリリーが取り組む「創薬」や「健康」という点に関しても、兵庫県とインディアナ州の共通した面ではないかと考える。兵庫・神戸が推進する神戸医療産業都市構想により、現在350以上の関係企業・団体が集積している。また、これを支える主要施設の一つであるスーパーコンピューター「京」を利用することにより、創薬を効率的に進められる。このような分野においても兵庫県とインディアナ州の交流推進の余地があるような気がする。

今回は、私がまずインディアナ州を訪問させてもらったが、次は是非ホルコム知事に兵庫県を訪れてもらいたい。

#### 《ホルコム知事》

インディアナ州を訪問いただいた井戸知事からの、これからの交流推進の呼びかけについては同意する。そして、どのような方法ということに関しては、大学間交流など人的交流をまず進めてはどうかと考える。

井戸知事から言及があった製造業や関税にかかるトピックスであるが、例えば、共和党の18人の知事が集まる会があり、議題は違うものであっても、自然とこのトピックスにかかる話が白熱するように、全米中が関心を寄せている。指摘があったように、日系企業とともに経済成長してきたインディアナ州にとっても影響は大きく、連邦政府に意見していきたい。



表敬訪問面談風景

## ②イーライリリー・アンド・カンパニー訪問

ア アルフォンゾ・ズルエッタ上級副社長兼リー・インターナショナル社長等との昼食面談

○日 時：7月25日（水） 13:45～15:00

○場 所：本社ビル ビジネス・ダイニング・ルーム

○参集者：12名

<イーライリリー側>

アルフォンゾ・ズルエッタ上級副社長兼リリーインターナショナル社長  
エンリケ・コンテルノ上級副社長兼リリー糖尿病事業部・リリーUSA 社長  
アディレット・メイマナリップ インターナショナルコーポレートアフェアーズ本部マネージャー  
白井未佳 日本イーライリリー コーポレートアフェアーズ本部 企画・医療政策部長  
赤松創 日本イーライリリー-渉外本部 コーポレートアフェアーズ本部 広報・CSR・アドボカシー部長  
内山周作 日本イーライリリー コーポレートアフェアーズ本部 企画・医療政策課長

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シカゴ日本国総領事館>

伊藤総領事、中村領事

○内 容：

世界を代表する製薬会社であるイーライリリーアンドカンパニーは、1975年の日本法人創立以来、その日本法人の本社を神戸に設置しており、去る7月13日にはその日本法人が新社屋開設の記念式典を執り行い、米国本社からリックス最高経営責任者も駆けつけた。これらを背景に、イーライリリーのインディアナポリス本社を訪問して、ズルエッタ上級副社長兼リリーインターナショナル社長等と懇談し、兵庫に根差したビジネス展開、神戸新社屋開設に対する謝意を改めて伝えた。

また、ズルエッタ氏の日本法人社長時代の地域貢献を顕彰するため、同氏に県功労者表彰（国際協力功労）を授与した。

《井戸知事》

ズルエッタさんが、日本法人の社長から米国本社へ帰任される際、「次はインディアナポリスで」という約束をさせていただいたが、今回その約束を実現した。ですので、次回は是非神戸でお会いしたい。ズルエッタ上級副社長、コンテルノ上級副社長ともに完成後の神戸新社屋は目にしていないようなので、その見学も兼ねて早期に実現いただくことを期待している。

かつて、当時イーライリリー日本本社のマスカレーナス社長は、当時約200名程度であった日本法人の従業員数を10年で10倍にすると言われたが、現在3,000名を超える規模に達しており、地域に密着しながら約束を果たしていただいていることを光栄かつ誇りに思っている。

日本法人の新社屋建設にかかり、神戸、大阪、東京の誘致競争のような形になり、自ら米国法人のレックライター会長に神戸に留まるよう手紙を発出した。その手紙の効果がどれほどあったのかは分からないが、最終的に神戸に留まる決断をしていただいたのは多くの社員の希望であったと承知しており、社員と会社の一体感の強さを評価している。

《ズルエッタ上級副社長兼リリーインターナショナル社長》

井戸知事にお目にかかり、日本法人の社長時代に何度もお会いしたことを懐かし



ズルエッタ上級副社長（左から2番目）、コンテルノ上級副社長（右から2番目）との記念撮影

く思った。

井戸知事から言及されたレックライター会長への手紙については、最終的に私のところに回ってきたため、よく覚えている。井戸知事のご理解のとおり、日本法人の本社が神戸に留まることになったのは社員の気持ちが大きかったものである。

現在は、自身とコンテルノ上級副社長が地球を二分割するような形でイーライリリーの全体をみているが、全世界的にみたビジネスは近年好調であり、今年第2四半期についてもいい数字が残った。

残念ながら、日本の所管はコンテルノ上級副社長の方となっているので詳細を十分に理解している訳ではないが、日本のビジネスに関しては、薬価を下げる改定がビジネスの大きな障害になっているようである。日本イーライリリーとしては、例えば、主力であるインシュリン等について薬価改定の例外にしてもらいたいという思いがあり、現在日本政府と交渉をしている。

#### 《ズルエッタ上級副社長兼リー・インターナショナル社長への県功労者表彰授与》

ズルエッタ上級副社長は、2008年から2013年にかけて神戸本社の日本法人の社長に就任していた。その間、ズルエッタ氏は、西神トレーニングセンターの開所、インシュリン開発に関する書籍の県内中学校・高等学校への寄贈など地域振興に大きく貢献した。そこで、井戸知事よりズルエッタ氏に、県功労者表彰（国際協力功労）を授与するとともに、今後とも、兵庫に根差した米国企業としての医療ビジネスの発展、地域社会への貢献にかかる理解・協力を依頼した。



ズルエッタ上級副社長への県功労者表彰授与

#### イ ヘリテージ・ホール等視察

○日 時：7月25日（水） 13:00～13:45

○場 所：本社ビル1階 等

○参集者：10名

<イーライリリー側>

アディレット・メイマナリップ インターナショナルコーポレートアフェアーズ 本部マネージャー

白井未佳 日本イーライリリー コーポレートアフェアーズ 本部 企画・医療政策部長

赤松創 日本イーライリリー 渉外本部 コーポレートアフェアーズ 本部 広報・CSR・アドボカシー部長

内山周作 日本イーライリリー コーポレートアフェアーズ 本部 企画・医療政策課長

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長、河知ワシントン州事務所長

<在シカゴ日本国総領事館>

伊藤総領事、中村領事

○内 容：

ズルエッタ上級副社長等との面談に先立ち、メイマナリップ本部マネージャーの案内により、1876年の創業から現在に至るまでの同社の歴史を展示した本社ビル1階のヘリテージ・ホールを見学した。

創設者イーライ・リリー大佐の署名と1900年代の会社のロゴが入った入り口を入ると、成功を収めているパートナー、製品と品質、マーケティングとセールス、科学的イノベーションの4つのテーマについての展示などに続き、イーライ・リリー大佐

の執務室の復元などを見学した。井戸知事は、創設者のイーライ・リリー大佐について、かつて米国本社 of の会長などを務めていたレックライター氏と話をした際、よく口にしていたと振り返っていた。

また、本社ビル入り口近くには、1876年創業当時に薬を製造していた小さな2階建ての建物が創立75周年を記念して復元されており、この建物も見学した。



ヘリテージ・ホール見学の様子



復元された創業当時建物の見学の様子

※当初予定していたインディアナポリス美術館視察については、悪天候による航空便の遅れのため、取り止めとなった。

#### (4) その他

##### ①在サンフランシスコ日本国総領事との面談

○日 時：7月24日（火）11:05～12:00

○場 所：サンフランシスコ国際空港

○参集者：6名

<総領事館側>

宇山智哉 総領事、青野涼 副領事、貞包彩花 派遣員

<兵庫県側>

井戸知事、水口国際局長、新井国際経済課長

○内 容：

サンフランシスコ国際空港乗継の際、在サンフランシスコ日本国総領事館の宇山総領事に現地事情の説明をいただいた。

《宇山総領事》

サンフランシスコやサンノゼ等は日本文化が浸透しており、今の時期は「お盆祭り」が盛んに開催されている。また、サンフランシスコのベイエリアは全米で唯一日系企業数が急拡大している地域で、現在約900社に達している。米国西海岸では、日本の存在感がますます高まっている。

この米国西海岸は、世界のイノベーション拠点として知られ、日本からの視察の数も多い。一方、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックは西海岸の人々に日本を訪れてもらう絶好の機会と捉えている。そこで、総領事館は、サンフランシスコ・ジャイアンツ球場で開催されたラグビーの大会会場にブースを構えて日本で開催されるワールドカップをプロモーションしたほか、誘客

の取組みを展開しているところである。

#### 《井戸知事》

兵庫県も日本の中では、外資系企業が多い地域であり、今年秋には世界的な経営コンサルタント会社のマッキンゼー・アンド・カンパニー（米国）がアジア初となるラーニングセンターを神戸に開設する。5年後、このセンターは、世界から延べ1万人を神戸に集めることとなる。

また、関西では、2019年のラグビーワールドカップから、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、さらには2021年のワールドマスターズゲームズまでの3年間で「ゴールデンスポーツイヤーズ」として誘客拡大を図ることとしている。ワールドマスターズゲームズ関西は、関西全域を開催地に約5万人の参加者を集める目標で、総領事館においてもプロモーションをお願いしたい。



宇山総領事と懇談

#### ＜別添資料＞

- 1 訪問団名簿
- 2 兵庫県・ワシントン州姉妹提携 55 周年共同声明
- 3 兵庫県立大学・エバーグリーン州立大学 学術交流協定書
- 4 新西宮ヨットハーバー・スワンタウンマリーナ協定書
- 5 兵庫県・ネブラスカ州相互協力共同声明
- 6 兵庫県立大学・ネブラスカ大学リンカーン校 学術交流協定書
- 7 「ひょうご経済セミナー」知事プレゼン資料
- 8 行程図（米国・ワシントン州、ネブラスカ州、インディアナ州）

（問合せ先）

産業労働部国際局国際交流課交流企画班  
TEL：078-362-9017

産業労働部国際局国際経済課経済交流班  
TEL：078-362-3328